

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上については、学校の授業に対して児童はほぼ肯定的な回答をしている。校内研究を中心に、見通しをもち学ぶ楽しさを実感できるような授業ができていいると考えられる。若手教員が増えていることもあり、校内研究を通してさらに指導方法の工夫を行っていく。</p> <p>・児童の協調性・自主性の育成に向けて、集会での司会、縦割り活動や運動会、係活動など児童が活躍する場を設けたことについては、児童や保護者も肯定的な回答をしているため、一定の成果を上げることができた。次年度は、「はきものそろえ・返事・挨拶」の3つがさらにできるように継続して取り組んでいく。</p> <p>・教育業務支援員やICT活用、校時の見直しにより、業務改善が進んだ。今後は、業務の見直しや退勤時刻や在籍時間についての意識改革推進を行い、指導方法の共有化等をする時間や児童と向き合える時間をさらに増やしていきたい。</p>
2 学校教育目標	みんなが仲よく みんなが楽しい学校
3 本年度の重点目標	<p>チームワーク ・子どもたちのチームワークで ・全職員のチームワークで ・地域・保護者の皆様とのチームワークで</p> <p>学力向上 ・楽しい授業の創造(授業改善) ・進んで取り組む家庭学習への改善 ・端末活用の推進</p> <p>すべての子どもを大切にしたい教育 ・特別支援教育の充実 ・学校全体のUD化 ・心の教育の充実</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○学ぶ楽しさを実感できる授業の実践	○「授業が楽しい」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上	・対話的な学びを尊重し、児童が複数で主体的な学びを行うようにして、学ぶ楽しさを味わわせる。								
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校が楽しい」について肯定的な回答をした児童が90%以上	・年に3回のほかほかタイムで共通した項目で道徳的活動を行い、自己肯定感や思いやりの心を育む。								
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応について組織的にできていると回答した教員100%	・年に3回のアンケートを実施して、実態を把握し、個別に対応する。								
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・各種キャリア教育や体験活動において、児童に活動の価値を感じさせながら見通しと学びの成果を振り返りを行う活動を仕組む。								
●健康・体づくり	○児童が安心して学校生活を送るために、チームワークを意識した学級経営、学年経営を行う。	○担任アンケートで、学年経営について90%以上がチームで取り組んでいることを感じているか。	・学級活動や児童会活動、学校行事で児童が活躍する場を仕組むとともに、話し合いの場を設け、子どもたちの意見を反映させていく。								
	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定) ②100点生活点検を学期に1回調査し、20点満点中15点以上の割合が80%を目指す。 ③「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒60%以上	①休み時間や放課後の過ごし方をおまかに把握し、昼休みや中休みの中で外遊びを推奨していく。 ②家庭での過ごし方を中心に点検してもらい、実態把握後に家庭に対して注意喚起をしていく。 ③養護教諭による講話、日々の給食指導での意識付けを行う。 ④低学年の交通教室実施。通学路の徹底。自転車点検と自転車の乗り方についての講話を実施する。 ⑤体や心の健康に関する講話を実施する。保健だよりでの意識付けを行う。アンケートでの振り返りの実施。								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在籍等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在籍等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・業務記録票を活用したり、月に1回必ず定時退勤日を設定したりして、退勤時刻や在籍時間を意識して勤務できるようにする。								
	○OSCを活用した、教育相談、児童対応の相談を推進し、ストレス軽減を図る。	○OSC来校日に合わせて、学年で相談する時間を全配当時間の1割を目指す。	・「支援依頼カード」を活用し、学校業務支援員へ作業の依頼が、簡単に誰でもできるようにする。								
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する研修を特別支援部を中心に全職員に行う。	○毎月の特別支援に関する共通理解の研修を設ける。 ○長期休業中には、講師を招いてより専門性の高い研修を実施する。	・UD教育を提案し、意識した授業・教室環境づくりを行うようにする。 ・コーディネーターを中心とした支援体制を充実させ、全教職員で関わる。								
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○	○学校教育目標の達成	○「はきものを揃えた」「まず返事をした」「先に挨拶をした」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上	・「浜っ子の3つの合言葉」を設定し、生活目標と関連させることで意識して取組を行う。								

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------